

## 現行計画の取組の進捗状況（要約版）

○計画に掲げた12の重点施策ごとの主な取組に関する実績及び自己評価・今後の方針

### ①：新型コロナ感染症の拡大に伴う影響

啓発事業や研修会、相談会など、対面形式での取組では取組が低調

⇒オンライン化が浸透してきたことから、2021年度実績では回復傾向にある。

<【コロナ影響あり】のうち、【評価△(目標に達していない)】の主なもの>

取組指標	今後の方向性
・街頭啓発キャンペーン	コロナ禍に対応した多様な啓発を行うよう見直しを図ること。
・児童虐待防止のための普及啓発活動への参加者数	オンデマンド配信などのオンラインの利点を活かして参加者の拡大に努める。
・出前人權講座の開催件数（性的マイノリティに関する内容を含む）	オンライン形式での開催により開催回数の確保を図る。
・自死遺族相談会開催回数 ・自死遺族のつどい（わかちあいの会）開催回数	自死遺族の方が安心して話せる場、受け止める場が必要であるため、感染対策に配慮したうえで継続して実施する。
・スクールカウンセラーの配置人数	社会環境の変化に伴い、児童生徒が抱える不安や悩みも多様化・複雑化し、学校におけるSCのニーズが高まっているため、様々な諸課題に対応できるよう、SCの人材確保及び資質向上に努める。
・若年層向けこころのセルフケア講座	より多くの方への訴求を図るため、オンデマンド配信やSNS広告等による積極的な周知を行う。

### ②：その他「評価：△」のもの

取組指標	今後の方向性
・災害派遣精神医療チーム(DPAT)指定機関数	大規模災害への備えとして重要であることから、研修や訓練などを通じて、指定機関の拡大とともに、資質向上を図る。